

## 【編集後記】

編集委員長 多鹿 秀継

今年度から、本紀要の編集委員長となりました。よろしくお願いいたします。これまでの編集会議において以下の2点の内容を議論し、編集委員会の承認を受けました。(1)今年度から、発行の巻数を数字表現とします。(2)次年度から、学術論文を掲載する本紀要論文の目的に鑑みて、特集号の形態は取らないこととしました。投稿要領に記載された方々の自主的な投稿によって、本紀要は構成されます。今後とも、本紀要の質的向上を目指して、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

編集委員 丸山 総一郎

社会経済不安からストレスが蔓延している現在、多様なストレス問題解明のため教育学や心理学の視点からのアプローチは不可欠です。もっと言うならば、学力低下やメンタルヘルス不調に対する支援などストレス対策に繋がる研究が、今ほど強く求められている時代はなかったのではないのでしょうか。そのためには、科学的根拠に基づいた研究、先進国も発展途上国も含む世界各国との交流や連携が深められるように国際標準と整合性のある研究が必要でしょう。今回も手法は異なりますがそうした最近の方向性を見据え、時宜に叶った論文が寄せられました。

本巻の成果が、教育学や心理学および関連領域の専門家や実践家のさまざまな活動におけるヒントやコツ、アイデアとなることを期待しています。

編集委員 笹川 洋子

期せずして「ライフスタイル」や「ストレスマネジメント」というキーワードの論文が多い号になったが、問題へのアプローチは、臨床心理学、教育心理学、教育哲学など、多様である。様々な分野を越境することで、そこに見えてくるものへの思いをこらしたい。

編集委員 吉野 俊彦

昨年に続いて編集委員を担当させていただいた。昨年度の10件から3件という件数の増加だけでなく、内容もより広がりを持ったように感じる。いわゆる平均値によって語る方法論は、何かを全体像として大づかみに理解するためには適しているが、臨床心理においては、少なくとも以下の2つの問題点が残ると考えられる。ひとつは、目の前にいるクライアントがその研究によって対象となったのと同じ母集団に属するか、そしてもうひとつは、そのクライアントと平均値との差をどのように評価するかという点である。心理学に限らず教育学も同じく、そこで生活している人間を対象とした学問であり、少しずつ重ねる、また広がる方法論によって当てられる光が、全体像だけでなく、一人ひとりにも届いてくれればと願ってやまない。

表紙のデザインについて

うす緑の落ち着いた色調を背景に紺の帯に白抜きで神戸親和女子大学大学院研究紀要の横文字を配し、多くの研究を表す縦の緑の直線が未来に向けて伸びる構成となっている。このような色調と構図はさわやかさ・聡明さ・厳肅さ、大学院をベースとした発展と意気込みを象徴している。

### 神戸親和女子大学大学院研究紀要 第6巻

平成22年3月31日発行

編集者 神戸親和女子大学大学院研究紀要編集委員会

発行人 大学院研究科長 山根 耕平

住所 〒651-1111 兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13-1

神戸親和女子大学大学院合同研究室 078-591-1743

印刷 サンキ印刷株式会社 06-6453-6541